

## クロスタマーケンス 総合保育園訪問

(Klostermarkens Børnehus)

P.I.C. 保育園園長 Ms. Inge Erbo Mortensen

(インゲ・エアボ・モーテンセン)

レポート：福西 暁里

### ★クロスタマーケンス総合保育園の概要

職員は全体で 26 名、キッチン職員を入れて、30 名働いています。中間のハウス（2歳半から4歳児）、大型ハウス（5歳児）の3つのハウスから構成されています。

朝 6:30 から夕方 17:30 の保育時間で運営されており、朝 7:30 になると朝ご飯を食べてこなかった子どもが朝食を食べます。

入口に iPad が設置されており、保護者の出入りを確認したり、子どもの出欠を確認したり、今日の保育園での子どもたちの様子、ニュースを保護者自身で確認できるようになっています。また、新入園児がいる場合はその紹介もされます。

### ★リトルハウスについて

リトルハウスは保育室に子どもの家族や、好きな物などのたくさんの写真が貼ってあり、いつでも家庭的な雰囲気や安心感をもって保育園で過ごせるように工夫されています。

8時頃から園庭で登園児を受け入れ、晴れている日はそのまま9時前まで園庭で体を動かして過ごします。

9時頃より保育上の教育的な項目についての保育が行われます。現在は、運動能力の発達に重きをおいて保育を進めており、例えばボディストッキングを着て、おへそ、おっぱいなどの体の場所や名前を知らせていくことで自分の体を知ることが



<保育園で木登り体験>

でき、身体と運動を発達させるようにしています。

11時になると乳児保育が始まります。

お昼ご飯を食べて、おむつを替えた後に必ずおやすみの絵本を読み、お昼寝をします。絵本を読むときは対話方式を取り、子どもたちが参加できるようにしています。お昼寝は、室内と乳母車に分かれて行い、室内でお昼寝をするのは2歳児が多いようです。

### ★乳児期から自己決定を育てる

1歳児ぐらいになると自分のことを自分で出来るように自助の援助をします。着替えについても保育士が自助援助をし、自分でできるようにつなげていきます。

給食のおかゆやミルクは出来るだけ自分でつぐようにし、食べたいものを自分の食べたい量を決め、自分の食べられる量を

知っていくように関わります。自分のことを自分で知るといことにつながっていきます。

14 時になるとお昼寝から起きておやつ  
のフルーツを食べます。

### ★中間のクラス

中間のクラスは 40 名の子どもがいます。リトルハウスで育ったことの上に次のステップの発達を保障していくためには保育士同士の信頼関係が成り立っています。また雷ではない限り毎日戸外にでて遊んでいます。(室内と戸外を行ったり来たりしてもよい)

### ★大きなクラス

朝 7 時半まで食堂で過ごし、その後は部屋に移動します。中間児と同じように 12 時半からお迎えまでほとんどを戸外で過ごします。

大きなクラスは、3つのグループがあり、全員で 60 名います。

部屋に移動したあと、戸外や室内で過ごし、9 時半頃におやつ  
のフルーツやパンを食べ、その後教育的な遊びとして今は数字についての保育の時間を持ちます。

教育的な遊びの保育はテーマに沿って進められます。体の動きを取り入れており、歌に動作を入れたりして進められます。食事は 2つのグループは食堂で食べ、もう一クラスは部屋で食べます。

火曜、水曜、木曜はお弁当をもってきて 10 時から 11 時半頃の間公園などに行き食べます。そのとき、交通のルールを知らせるようにしています。

### ★テーマ保育について

学びの場は子どもたちの興味関心により動きのあるものであり、変化していくも



<子どもたちの、のびのびした絵>

のであり、学びの場は動きのあるものであるべきです。クラスを円滑に進めていくにはテーマは大事なものであります。今のテーマは動物で、そのことについてグループで話をしたり、聞いたり、また自分で勉強し調べたりできるように進めていき、その後深めるために農家や牧場に見に行ったり、話を聞きに行ったりしにいけます。また、この活動では、自分で発表する力をつけられるようにすることも目的にあります。

### ★誕生日会について

個々を大切にするために誕生日会は各家庭にいつて行います。大きなクラスは 1 グループの 22 名ずつ家に招待されます。これは乳児も同じです。

### ★言葉の教育について

デンマーク語が基本に話されています。この保育園に来ている子どもは母子家庭の中国、ロシア、トルコの子がいて、親がデンマーク語を話せないこともあり、子どもも話せないことが多いです。デンマーク語を話せないと社会でなじめないで、デンマーク語を覚えてもらえるようにしているようです。

### ★ハンディキャップのある子どもについて

この保育園には小児麻痺、弱視の子どもが生活しています。また、インクルージョン教育として、聴覚障がいを持つ子ども以外は保育園に入園しています。障がいをもった子どもも何も違いなく過ごしており、毎日3～4時間担当の保育士とともに特別な時間をもてるように保育をしています。

### ★保育園を見学しての感想

デンマークの国自体が保育について、また子どもがどう育てほしいかという思いがきちんと定まっていて、それに基づき保育園の方針がきちんと定められているのだとわかりました。また、保育士は保育士同士を信頼し、子どもたちの育ちを保障するために何をしなければならぬかを保育士一人ひとりが考えらえているのだと思いました。

自分のしたいことを自分のしたいように一人ひとりが思い思いに遊んでいる姿

を見て、自分のスタイルを壊さない、また、一人ひとりの姿を認め合うという志向を感じ取れました。テーマ保育を進めるにあたり他人の意見を受け入れ、違いを認めるという“みんな違ってみんないい“の考え方につながり、個々を大切にすることが目に見えて理解できました。自分らしくその子らしくという保育を進めるにあたり、きっとたくさんの工夫もされており、保育士同士の連携をうまくはかれるように話し合うことを大切にされているのだろうなと思いました。

また、保育室を実際に見てその子らしく過ごせるようにたくさんの工夫がされていることが感じ取れました。例えば、寝転んで過ごせるような空間、暗くて落ち着けるような空間、食事場所などここはこうしなければいけないという決まりはなく、自分が選んで自分らしく過ごせるような空間が作られていることがとても素敵でした。

<終わりの集いのお話タイムも外で>

